

センダイムシクイ

Phylloscopus coronatus

ウグイス科・夏鳥



センダイムシクイ

名前の由来

「チョチョチョ、ビー」という鳴声から「千代(ちよ)むしくい」と呼ばれたのが、後に「千代(せんだい)むしくい」に転じたと言われる。ムシクイは「虫食い」で、昆虫食であることから。漢字名：仙台虫食

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)12.5cm。スズメよりも小さい。

体の上面は緑っぽいオリーブ色で、下面は汚れた白色で緑褐色を帯びる。

目の上に白い眉斑(眉のような模様)があり、その上はわずかに暗い色。頭頂部の前から後にかけてやや明るい灰緑色の線が通っている。

声:「チョチョ、ビー」「チョチョチョ、ビー」とさえずり、これを「焼酎一杯、グイー」と聞きなしている。「チェーンチェーンチェーン」などともさえずる。

地鳴き(さえずりではない普段の声)は「フィッ、フィッ」という声だという。

類似種と区別点:エゾムシクイ、メボソムシクイ。

エゾムシクイは褐色味が強い。メボソムシクイは下面が黄緑色。

ウグイス類(ムシクイの仲間、センニュウの仲間、ヨシキリの仲間)はあまり目に触れる所に出てこないうえによく似ていて識別が難しいが、さえずりで区別出来る。

エゾムシクイは「ヒーツーキー、ヒーツーキー」と高い声でさえずる。

メボソムシクイは「リュッリュッリュ」と小さく鳴いてから「チョチョリ、チョチョリ、チョチョリ」と歯切れのいい声でさえずる。



センダイムシクイの頭には、中央部縦に薄い色の線がある



センダイムシクイはさえずるときも、葉の陰にいることが多い

生息環境・分布

低山帯の落葉広葉樹。北海道では平地の林に普通にすむ。

林床に藪が多いところを好む。十勝では夏鳥。

分布:ウスリー地方から朝鮮半島、日本にかけて繁殖し、東南アジアで越冬する。

日本には夏鳥として渡来し、北海道から九州までの各地で

繁殖する。

北海道には5月上旬に渡来。おもに標高600m以下に分布する。

十勝には、低地から低山に分布、繁殖する。平地では河畔林にも多い。小規模林にはいない。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁殖							
東南アジア(越冬期)	-										-	

食性・他生物との関わり

主に甲虫、ハチやアリ、ハエやアブなどの幼・成虫を食べる。

藪の中で虫を捕らえるのだが、木の上で餌を探すことが多く、地上に降りて採餌することはまれだという。枝から枝に飛び移りながら葉や枝についている虫を捕らえ、枝から見上げるように葉の裏を探し、見つけた虫に飛びついて捕らえもする。

しばしばツツドリに托卵される。

捕食者は猛禽類など。



センダイムシクイ

繁殖生態

繁殖期は5～6月。

草の根元や崖のくぼみに、枯葉、樹皮、イネ科の茎、コケ類などを材料にして、横に出入り口のある球形の巣を作る。産座には菌糸束や獣の毛、羽毛を使うという。

4～6個産卵し、約13日卵を抱いて、ヒナをかえす。

ふ化したヒナはオスメス交代で抱かれ、ふ化後約14日で巣立つ。

繁殖期の生態など不明な点が多いという。

近縁のニシセンダイムシクイについて：(アフガニスタンで繁殖する鳥) 一夫一妻で繁殖。巣材運びはオスメスともに行うが、実際に巣を作るのは主にメス。3～4個産卵し、オスメス協力して卵を抱き、オスメス共同でヒナに餌を運んだり巣から糞を運び出したりするという。

興味深い話

■センダイムシクイは常に林の中で生活し、さえずり場合でも広葉樹の茂みの中などに隠れていて目立つ場所にてこないため姿をなかなか見られない。繁殖期の生態、つがい作りやその解消などについても不明な点が多いという。

■センダイムシクイの卵の色は純白で斑紋がない。

■しばしばツツドリ(カッコウの仲間)に托卵される。托卵とは他の鳥の巣に卵を産みつけ、その鳥にヒナを育てさせること。

■「チヨチヨチヨ、ビー」とさえずり、これを「焼酎一杯、グイー」と聞きなしている。

■センダイムシクイのさえずりは繁殖地のみでなく、春の渡りの途中でも聞かれることがあるという。

■カラ類の混群やメジロの群の後について採食することがあるという。

■センダイムシクイは繁殖を終えると本州でも8月中旬から山を降り始め、9月中旬までには平地の林を通り抜け南

下してしまう。センダイムシクイとエゾムシクイは南下が早いので、10月にムシクイの仲間を見かけたら、ほとんどがメボソムシクイだと見て良いという。

■山口県では「すけべどり」とも呼ばれるという。

■「むしくひ」はかつて「ウグイスの老鳥」「ホトトギス類」を指していたという。



センダイムシクイと托卵するツツドリ(円内)

配慮事項

小規模な林には見られず、林床に藪のある林を必要とする。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I」清棲幸保、講談社 1978

「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997

「The Birds of Pakistan. Vol. 2, Passeriformes」Roberts, T. J., Oxford Univ. Press 1992

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類